

4強決まる



第69回
春季
高校野球
県大会

第4日

28日準決勝

第69回春季東北地区高校野球県大会第4日は24日、野田村のライジングサンスタジアムなどで2球場で準々決勝4試合を行い、盛岡三久慈、花巻東、盛岡大付が勝ち上がり、ベスト4が出そろった。

盛岡三は3-1で大船渡に競り勝ち、2018年の第65回大会以来(20年は大会中止)の4強入りを決めた。

久慈は8-1の八回コールドで水沢工を下し、2大会連続で準決勝に進出した。

花巻東は盛岡四に9-2、盛岡大付は福岡に9-0で、ともに七回コールドで勝った。花巻東は8大会連続、盛岡大付は3大会連続でベスト4進出となった。

28日の試合

▽準決勝
久慈1 花巻東
(野田) (10時)
盛岡大付1 盛岡三
(12時40分)

▽第2試合

福岡 000 000 000 0 | 0
015 300 X | 9

盛岡大付 (七回コールド)
(福) 日影 館温、立崎 一片野
(盛) 武石、酒井 一吉田、坂田
困今野 (盛)
船生 (盛)
佐藤 (盛)

【評】盛岡大付がそつなく加點し勝ち切った。二回に内野ゴロの間に先制。三回は今野の左越えソロや、四死球絡みで得た好機を逃さず5点を奪って突き放した。

福岡は打線が散発2安打と振るわず、攻撃の糸口がつかめなかった。

◇準々決勝▽第1試合

久慈 100 000 52 | 8
100 000 00 | 1

水沢工 (八回コールド)
(久) 小向、小川 一荒谷
(水) 森岡、安倍 一松戸
佐藤 2、宮沢 (久)
垂柳、対馬、小川 (久)

【評】久慈が終盤の長打攻勢で大勝。1-1の七回に宮沢の右中間2点三塁打や佐藤の2点三塁打などで一挙5点を奪い、八回にも2点を加えコールド勝ちした。

水沢工は4失策と守備が乱れて、打線も本来の力を発揮できなかった。

野田

2000 | 3
0000 | 1

村、岡沢一志田

三は0-1の五回遠藤の中犠飛寸き、六回2死駒井の2点三塁打。主戦内田がした。二回に今野の内野手が、追加点が

盛岡三 競り合い制す

エース奮闘

打線が援護

盛岡三3-1大船渡

奮闘するエースに打線が応じた。盛岡三は五回に1-1の同点に追いつき、六回に駒井優樹(2年)の2点三塁打で勝ち越しに成功。またも競り合いを制し、チームは勢いを増している。

主戦内田昇斗(3年)は四回に先制点を許した後も持ち味を発揮。右打者にはスライダー、左打者にはシンカーを投げ分けて凡打の山を築き、味方の反撃を待った。

打線は五回、敵失や死球で1死満塁とし、中犠飛で1点。無安打で試合を振り出しに戻した。六回は安打と四球で2死1-1塁とし、駒井が「甘い直球を思いっきり振り抜いた」と一撃。左越え三塁打で一走もホームに返り、駒井は三塁上でガッツポーズした。

内田は、最速135キロの球速以上に直球に威力があった。終盤は外角を中心に攻めて打ち気をかわし、追い上げを許さなかった。

った。

2回戦の黒沢尻工戦(4)に続き、苦しい試合をものた。グラウンドの選手だけでなく、ベンチやスタンドも同調で臨み、チームは一戦成長している。金楓大主将は「まだ改善の余地がある」と準決勝の盛岡大へ向け、闘志を燃やした。

(大)

